

依頼者 桐山製作所

供試品

製造者 桐山製作所

マーク HAND WERK KIRIYAMA

名称

5) クデルナー、ダーニッシュの濃縮装置 (JSKD-1)

試験項目

上記の供試された装置についての回収率試験 (附、操作手法の明細報告)

昭和 50 年 2 月 1 日依頼の上記試験の結果を別紙試験成績書を添

えて報告します。

昭和50年3月4日

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号

支所：大阪府吹田市豊津町3番1号

## 5) クデルナー、ダーニッシュの濃縮装置 (JSKD-1) についての回収率試験

### A) 実験方法

PCB KC-300の1ppmノルマル・ヘキサン溶液又はドリン系農薬のアセトン溶液 (アルドリン0.1ppm、ディルドリン0.2ppm、エンドリン0.4ppm,  $\gamma$ -BHC0.1ppm) の1mlをKD濃縮装置に入れ、更にノルマル・ヘキサン又はアセトンを500ml加えた後、沸騰水中で5mlに濃縮した。なお、この際途中で2回上部を洗浄した。これを10mlに定容し、ECDガスクロマトグラスで定量した。

回収率 試料名	1	2	3	平均	溶媒
KC-300	94	98		90	ノルマル ヘキサン
$\gamma$ -BHC	80	72	83	78	アセトン
アルドリン	84	78	84	82	アセトン
コンドリン	91	91	100	94	アセトン
ディルドリン	86	82	89	86	アセトン

上に示すように、PCBの内でも揮散性の強いKC-300の場合及びエンドリンでは満足できる結果を得たが、 $\gamma$ -BHC、アルドリン、ディルドリンでは常圧型では一部が揮散してしまった。この結果よりPCBでは常圧型で使用できるが、ドリン系農薬のような揮散性の強いものでは減圧型として使用した方が良いと考えられる。